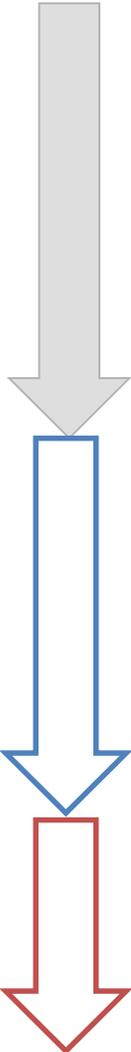


改元に伴う情報システム改修等への 対応について

経済産業省
商務情報政策局

1. 改元に関するこれまでの経緯と今後のスケジュール



平成30年5月17日	官房長官会見において、「作業上の便宜として、新元号の公表日を改元の1カ月前と想定し、官民の情報システム改修の準備を進めることとした」と発言
平成30年6月中旬	各省庁所管の業界団体等を通じて、新元号の公表日を改元の1カ月前と想定し準備を行うよう周知文書を発出
平成31年1月4日	安倍総理が年頭記者会見において、4月1日に新元号を発表することを表明
平成31年1月下旬	各省庁所管の業界団体等を通じて、改元に伴う情報システム改修等への対応例や留意すべき事項について周知文書を発出
平成31年2月15日以降	改元対応に関する政府の周知活動の一環として、経済産業省が全国10か所において説明会を実施
平成31年4月1日	新元号公表
2019年5月1日	改元

※ベンダー企業が4月1日以降の改元に向けた製品アップデートの提供スケジュールを提示しているため、ユーザ企業やベンダー企業におかれては、それらをご確認の上、改元対応のスケジュール確定をお願いします。

2. 改元による情報システムへの影響に注意が必要な理由

- 前回の改元（昭和⇒平成：1989年）時と比較すると、現在の情報システムは、規模や構成が大きく異なるため、前回改元時の対応とは異なる対応が求められる。

◆ 前回の改元時は、ホストコンピュータ全盛時代

- ✓ 情報システム（サーバだけでなく端末も）は、当時、情報システム部門の強い統制下にあった。
 - ✓ 日本語版WindowsのようなOS・端末は登場前、Officeアプリも限定的な利用。
- ⇒ **情報システムの構成**は、前回改元時と**全く異なっている**。

◆ 今日のシステム間連携（システム間のデータのやりとり）は多様で複雑

- ✓ システム間連携は広範囲化しており、かつ、手段も多様化している。
 - ✓ 例：ExcelやPDF等のメディアを用いた連携や、XML、JSON等のデータによる連携。
- ⇒ システム間のデータのやりとりの複雑化により、**テストによる確認が不可欠**。

3. 民間事業者の皆さまへ：情報システムの改元対応におけるポイント

- 5月1日に予定されている改元に向けて、使用されている情報システムの対応については、次のような点に注意して準備を進めていただくようお願いします（なお、新しい元号は4月1日に公表される予定です）。

① 使用されている情報システム（サーバだけでなく端末も）で和暦が使用されているかどうか確認しましたか？

- ✓ 画面表示や他のシステムとの連携で和暦が使用されていることがあります。

② 改修の作業計画を立てましたか？

- ✓ 自社でシステムを構築しており、その改修が必要となる場合は以下③～⑤もご確認ください。
- ✓ システム間で情報連携を実施している場合、送信側・受信側のいずれかの改元対応が未了だとエラーが生じる可能性があることに注意が必要です。
- ✓ 市販のソフトウェア（OSなどを含む）のアップデートが必要となる場合は、販売元のソフトウェア会社のHPなどで改元における対応を確認ください。

③ 改修やアップデートなどの対応が必要かどうか確認しましたか？

- ✓ 他のシステムとの連携で和暦を使用しているような場合には、連携先のシステムの作業も考慮する必要があります。

④ 改修後のテスト・リハーサル計画を立てましたか？

- ✓ 念のため、事前に新元号が正しく表示されるかご確認ください。
- ✓ 連携している他のシステムとも送受信テストをしてみましょう。

⑤ 改修が改元日までに終わらなかった場合の対応を考えましたか？

- ✓ ゴム印で新元号に修正するなどの方法をご検討ください。

①和暦の使用部分のチェック

②対応が必要かチェック

③作業計画を立案・実施

④テスト計画を立案・実施

改元（5月1日）

○ 行政機関等の情報システムについて

- ①行政機関等の情報システムについては、改元日までに改修を終了することを基本として準備を進めています。
- ②改元日以降、皆さまの情報システムの改修が間に合わないなどの場合でも、国民の皆さまから行政機関等に対してご提出いただく文書・データ等については、「平成」表記のままでも有効なものとして受付予定。（「平成31年5月」と記載されている申請書など）。